

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310103518	設置等組織名	(仮称) デジタル・イノベーション学環
大学名	東京都市大学	設置区分	私立	事業計画名	東京都市大学 特定成長分野への転換に係る新学部設置
学校種	大学	都道府県	東京都		

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応		
フェーズ1	① 令和5年7月 選定結果を受けて準備室を設置 ② 令和5年9月 人材ニーズ調査を開始（産業界・卒業生） ③ 令和5年10月 地域の企業等と設置構想に関する事前協議を開始 ④ 令和5年10月 アドバイザリ委員会（第1回）開催 ⑤ 令和5年10月 国内先進事例視察 ⑥ 令和5年11月 教育課程検討を開始 ⑦ 令和5年11月 教員採用計画検討を開始 ⑧ 令和5年12月 教員公募（第1次）を開始 ⑨ 令和6年4月 アドバイザリ委員会（第2回）開催 ⑩ 令和6年4月 新設機器・設備導入計画検討を開始 ⑪ 令和6年4月 教員公募（第2次）を開始 ⑫ 令和6年9月 国内先進事例視察 ⑬ 令和6年10月 教育産業への学生ニーズ動向と教育プログラム検証を実施 ⑭ 令和6年10月 アドバイザリ委員会（第3回）開催 ⑮ 令和7年4月 学生課食の見直しに関する業務を作成するため、人材採用意向調査・入学意向調査を実施 ⑯ 令和7年4月 アドバイザリ委員会（第4回）開催 ⑰ 令和7年10月 大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会に認可又は届出の事前相談書類を提出 ⑱ 令和7年11月 学内規程等の整備 ⑲ 令和7年12月 事前相談結果の伝達 ⑳ 令和7年12月 設置届出書作成のためのコンサルティング業務を委託	① 令和6年2月 選定結果を受けて事務プロジェクトを設置（実働的には10月から活動開始）（R6.3.29承認） ② 令和6年1月 ニーズ調査を開始（教育産業）（R6.3.29承認） ③ 令和6年4月 地域の企業等と設置構想に関する事前協議を開始（R6.3.29承認） ④ 令和6年3月 アドバイザリ・コンボシタル（第1回）開催（R6.3.29承認） ⑤ 令和6年1～3月 国内先進事例視察（R6.3.29承認） ⑥ 令和6年5月 教育課程検討を開始（R6.3.29承認） ⑦ 令和6年11月 教員採用計画検討を開始（R6.3.29承認） ⑧ 令和6年5月 新設機器・設備導入計画検討を開始（R6.3.29承認） ⑨ 令和6年12月 教員採用活動を開始（R6.3.29承認） ⑩ 令和6年11～12月 国内先進事例視察（R6.3.29承認） ⑪ 令和6年10月 人材ニーズ調査を開始（産業界・卒業生）（R6.3.29承認） 【改組内容】 令和6年 設置等組織名を「デジタル理工学部 デジタル理工学科」から「（仮称）デジタル・イノベーション学環」（学部等連携課程実施基本組織）に変更した。（R6.9.3承認） 令和6年 入学定員を「200名」から「100名」に変更した。（R6.9.3承認） 令和6年 他学部等の入学定員の減少数を「200名」から「100名」に変更した。（R6.9.3承認）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。	
	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。			
フェーズ2 準備し			R7年度自己評価	リストから選択してください。	
認可申請又は届出	令和8年4月 デジタル理工学部デジタル理工学科 学部の設置届出予定				
フェーズ1 準備し	⑳ 令和8年4月 設置届出書作成のためのコンサルティング業務を委託 ㉑ 令和8年7月 広報開始		R8年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ2	① 令和8年4月 教育研究環境整備のための端末・改修工事に着工 ② 令和8年10月 機器・設備設置のための工事着工 ③ 令和9年1月 新設機器・設備導入 ④ 令和9年2月 LMS試験運用 ⑤ 令和9年3月 研究室什器設置		R9年度自己評価	リストから選択してください。	
開設又は定員増	令和9年4月 デジタル理工学部開設予定（入学定員200人、編入学定員0人、工学関係）				
フェーズ2 準備し			R10年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ3	① 令和9年4月 コーディネーター職員雇用 ② 令和9年4月 学生用履修ガイドブック（令和9年度入学生用）作成 ③ フェーズ3各年度随時 広報 ④ フェーズ3各年度随時 地方の企業・自治体との協議 ⑤ 令和9年6月 新入生の実態把握のための学生アンケートを実施 ⑥ 令和9年10月 外部有識者会議（第1回）を開催し評価と助言を受ける ⑦ 令和10年4月 学生用履修ガイドブック（令和10年度入学生用）作成 ⑧ 令和10年4月 新入生と在学生（2年生）の学生アンケートを実施し、年次進行による教育効果測定とフォローアップを行う ⑨ 令和10年10月 外部有識者会議（第2回）を開催し評価と助言を受ける ⑩ 令和11年4月 学生用履修ガイドブック（令和11年度入学生用）作成 ⑪ 令和11年4月 新入生と在学生（2年生・3年生）の学生アンケートを実施し、年次進行による教育効果測定とフォローアップを継続的に行う ⑫ 令和11年10月 外部有識者会議（第3回）を開催し評価と助言を受ける ⑬ 令和12年4月 学生用履修ガイドブック（令和12年度入学生用）作成 ⑭ 令和12年4月 新入生と在学生（2年生・3年生・4年生）の学生アンケートを実施し、年次進行による教育効果測定とフォローアップを継続的に行う ⑮ 令和12年10月 外部有識者会議（第4回）を開催し評価と助言を受ける		R11年度自己評価	リストから選択してください。	
				R12年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和8年4月 減員に係る届出予定（入学定員200人）				

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京都市大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の大学

該当無し

■ チェック
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

■ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

■ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

■ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

■ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

■ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育が修業年限の編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学希望者が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材が必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

■ チェック
- ⑨

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑩

フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす資の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京都市大学
-------------	-------	-----	--------

④ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック
--------------------	--

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
既に実施している本学独自のPBL科目「SD PBL」では、企業や自治体抱える課題をテーマとして設定している。本学が所在する東京都世田谷区内で協定を締結している大学と協議を進め、例えば、単位互換制度による連携した教育体制の構築を目指す。テラサル大学（フィリピン）、エディンコウフ大学（オーストラリア）、タサート大学シリントーン国際工学部（タイ）、マレーシア日本国際工科院（マレーシア）と東京都市大学で連合する「アジア・大洋州 5 大学連合」が2018年に設立されている。連合体を構成する大学は国際的にも評価が高く、当該計画に関連する分野における強みを持つ海外大学との連携関係は既に構築されている。この取組では、締結校間の 2 大学で各 1 学期の授業を履修し単位を修得する交換留学プログラム、交流協定校の学生が 1 週間程度のPBLを実施するサマーキャンプログラムがある。これらを活用して、アジア・オセアニア地域の学生とともに、グローバルリーダーの育成を目指す。	a.：本学の卒業生で実社会の第一線で活躍されている方々が審査員となって「第5回東京都市大学ビジネスプランコンテスト」を対面にて開催した。また、2024年度前期には、全学を対象とした教養科目として産業界から講師を招き、「未来を拓くイノベーション」を開講することした。 b.：既に単位互換制度を確立している大学との間で、特別聴講学生の送り出し・受け入れがあった。 c.：アジア・大洋州5大学連合（AOFLUA）【本学、テラサル大学(フィリピン)、エディンコウフ大学(オーストラリア)、タサート大学シリントーン国際工学部(タイ)、マレーシア日本国際工科院(マレーシア)の 5 大学】により、国際社会でリーダーシップを発揮する人材育成のため、第 3 回サマーキャンがマレーシアのクアラルンプールで開催された。本学からは5名が参加した。 これらの連携をさらに発展させる形で、教育体制の整備を進めていく。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学の入試制度は、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜・その他特別選抜を多様に展開し、2023年度実績ではそれぞれ18.2%・29.5%・61.1%・1.2%の入学者割合となっている。このように既に入試制度の多様化と入学者の多様化が図られている。入学者選抜における科目の見直しとしては、大学入学者選抜実施要項に従い、各入試制度の趣旨を踏まえながら適切な評価方法を取り入れており、試験終了後は入試関係会議で実績を確認して不断の見直しを行っている。2024年度入試では理工学部総合型選抜で女子枠を設けた制度を導入しており、その実績を踏まえ当該計画への反映も検討する。高校との連携として、高校での説明会はコロナ禍期間を含む直近5年間の平均で年142.2校、高校の探究活動を支援する「オープンミッション」という企画も展開しており、これらをさらに充実させる計画である。	a.：2025年度入試においては、学習指導要領の改定に伴い、共通テスト利用入試や一般選抜（前期情報型）において、「情報」を含めるように変更する。特に一般選抜（前期情報型）では、情報Ⅰ・Ⅱを範囲とする。 b.：2024年度入試では、理工学部総合型選抜で女子枠を設け、13名が入学した。2025年度入試においても、これを継続する。また、各分野の有識者をお招きして、新学部開設検討アドバイザリーシンポジウム「理工系女子学生の動向と増加支援施策」意見交換会を開催し、有識者から知見を提供いただいた。 c.：高校の「総合的な探究の時間」を支援する「オープンミッション」を2023年度も実施し、参加者数が207名と好評であった。2024年度も継続して実施することとしており、5月1日現在、申し込みを受付中である。 これらの取り組みをさらに発展させる形で、多様な入学者の確保に取り組んでいく。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東京都市大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育が修業年限の編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学希望者が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材が必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑨

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑩

フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす資の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東京都市大学
-------------	-------	-----	--------

98 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- ☒ チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - ☒ チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - ☒ チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
既に実施している本学独自のPBL科目「SD PBL」では、企業や自治体が抱える課題をテーマとして設定している。本学が所在する東京都世田谷区内で協定を締結している大学と協議を進め、例えば、単位互換制度による連携した教育体制の構築を目指す。テラサール大学（フィリピン）、エディスコーフ大学（オーストラリア）、タマサート大学シリントーン国際工学部（タイ）、マレーシア日本国際工科院（マレーシア）と東京都市大学で連合する「アジア・大洋州5大学連合」が2018年に設立されている。連合体を構成する大学は国際的にも評価が高く、当該計画に関連する分野における強みを持つ海外大学との連携関係は既に構築されている。この取組では、締結校間の2大学で各1学期の間の授業を履修し単位を修得する交換留学プログラム、交流協定校の学生が1週間程度のPBLを実施するサマーカーンププログラムがある。これらを活用して、アジア・オセアニア地域の学生とともに、グローバルリーダーの育成を目指す。	a.：地域における特定成長分野の人材を必要としている企業と設置構想に関する事前協議を行い、マスタ計画に反映された。また、本学の卒業生で実社会の第一線で活躍されている方々が審査員となって「第6回東京都市大学ビジネスプランコンテスト」を対面にて開催した。今年は、エントリーした22組の中から、書類審査を通過して最終進考に残ったファイナリスト5組が、毎週にわたるメンタリングを経てコンテストに臨んだ。また、前期には、産業界から講師を招き、全学を対象とした教養特別講義「未来を拓くイノベーション」を開催した。履修者数が224名と好評であった。 b.：既に単位互換制度を確立している大学との間で、特別聴講学生の送り出し・受け入れがあった。 c.：アジア・大洋州5大学連合（AOFUA）【本学、テラサール大学（フィリピン）、エディスコーフ大学（オーストラリア）、タマサート大学シリントーン国際工学部（タイ）、マレーシア日本国際工科院（マレーシア）の5大学】により、国際社会でリーダーシップを発揮する人材育成のため、第4回サマーカーンプがタイで開催された。本学からは5名が参加した。これらの連携をさらに発展させる形で、教育体制の整備を進めていく。	

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- ☒ チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
 - ☒ チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - ☒ チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - ☐ チェック d. 社会人学生の受け入れ強化に向けた取組（リカレント・リスクリングへの対応）
 - ☐ チェック e. 留学生の受け入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学の入試制度は、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜・その他特別選抜を多様に展開し、2023年度実績ではそれぞれ18.2%・29.5%・61.1%・1.2%の入学者割合となっている。このように既に入試制度の多様化と入学者の多様化が図られている。入学者選抜における科目の見直しとしては、大学入学者選抜実施要項に従い、各入試制度の趣旨を踏まえながら適切な評価方法を取り入れており、試験終了後は入試関係会議で実績を確認して不審の見直しを行っている。2024年度入試では理工学部総合型選抜で女子枠を設けた制度を導入しており、その実績を踏まえ当該計画への反映も検討する。高校との連携として、高校での説明会はコロナ禍期間を含む直近5年間の平均で年142.2校、高校の探究活動を支援する「オープンミッション」という企画も展開しており、これらをさらに充実させる計画である。	a.：2025年度入試においては、学習指導要領の改定に伴い、共通テスト利用入試や一般選抜（前期情報型）において、「情報」を含めるように変更した。2026年度入試では、「情報」を含む「共通テスト利用入試・後期（6教科型）」を新設する。 b.：2025年度入試では、理工学部総合型選抜で女子枠を設け、19名が入学し、前年度比146%と増加した。2026年度入試においても、これを継続する。 c.：高校の「総合的な探究の時間」を支援する「オープンミッション」を2024年度も実施し、参加者数が322名と好評であった。参加者アンケートを見ても「後輩にも勧めたい」という声が多かったことから、2025年度も継続して実施することとしており、5月1日現在、申し込み受付中である。これらの取り組みをさらに発展させる形で、多様な入学者の確保に取り組んでいく。	

大学名	東京都市大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	東京都市大学
-----	--------

[illegible]

大学名	東京都市大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,750	1,750	1,750																
		入学者数	人	1,906	1,773	1,837																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,750	1,750	1,750																
		入学者数(B)	人	1,906	1,773	1,837																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.09	1.01	1.05																
	収容定員等	収容定員(C)	人	6,670	6,800	6,900																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	7,144	7,347	7,506																
		編入学者数	人	26	24	21																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	1.08	1.09																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定				開設			完成年度						
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		1,058,563	945,808	973,352	913,108	911,416	994,899	1,232,725												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	944,089
本事業による助成金の額(F)	千円	1,690,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	986,339

特記事項

編入学定員0人とは、若干名を意味している。
